

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 永犬丸西 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

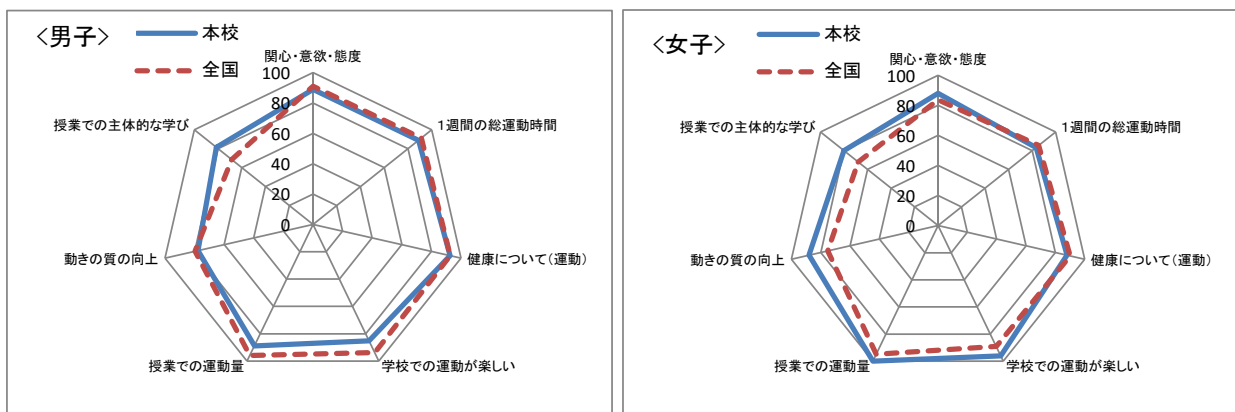
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

本学年児童の傾向として、「授業での主体的な学び」の結果が全国平均を大きく上回っている。これは、体育の授業において、めあてを大切にしてきた成果と言える。自分なりの目標を立てて運動に取り組むことができている児童が多い。反面、男女で異なるが「学校の運動が楽しい」や「授業での運動量」について、全国平均よりやや下回る傾向が見られる。楽しさや運動量について、男女ともに高まるような取組が必要である。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

コロナ禍により、友達と触れ合い楽しさを感じたり、密を避けるため十分な運動量を取れなかった。来年度は、準備運動から体を十分に動かし、体育科の目標に照らして、友達と触れ合い、思い切り体を動かせる活動に取り組むようにする。また、平均を上回った「めあて」をもたせることも、学校統一して取組を継続する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

本年度、計画していた「持久走」や「なわとび集会」をコロナ禍のため実施することができなかった。来年度は、感染状況を踏まえながら、児童会が主体となって、楽しく運動に取り組めるようにしていきたい。